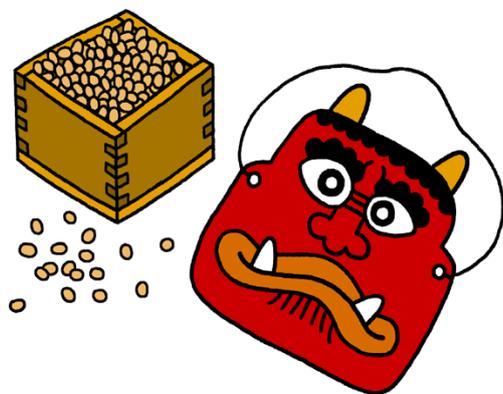


2月3日は立春，暦の上では春です。

3学期になって1か月が過ぎました。新学期早々大雪に見舞われましたが、その後は比較的穏やかな天気が続いています。心配されたインフルエンザも感染者も増えることなく、落ち着いた状態です。2月には3学期の一大行事であるドリームコンサートも控えています。県内の感染者は減少傾向にあるものの、ご家庭でも引き続き、「手洗い，うがい」「規則正しい生活」「十分な栄養」についてご協力をお願い致します。

「1月はいく」の言葉通りあっという間に1月も終わり、明日から2月となります。2月3日



は「立春」です。旧暦では、「立春」が1年の始まりです。そのため、立春の前日を「季節を分ける日」という意味の「節分」と言い、豆まきをして1年の穢れ(けがれ)を祓い(はらい)清めるという風習が生まれました。一般的には、一家の主人か年男(女)が豆をまくものとされています。今年の「節分」は2月2日の日曜日です。ご家庭で家族そろって豆まきをしてみてくださいはいかがですか。

2月はまだ冬の真っ盛り。寒い日が続きますが、「立春」を迎え暦の上では春。「立春」以降にはじめて吹く強い南風を「春一番」と言います。

「ならぬことはならぬものです。」

2014年のNHK大河ドラマ「八重の桜」は、会津出身の新島八重を主人公にしたドラマでした。これをきっかけに、新島八重が脚光を浴びるようになり、幕末の会津についても再び見直されるようになってきました。

上の「ならぬことはならぬものです」は、「什の掟(じゅうのおきて)」と言い、会津藩の子どもたちのきまりを示したものです。この「什の掟」を会津若松市では、「あいづっ子宣言」として、子どもたちにその心得を分かりやすく説いています。

「年長者を敬う」とか「がまんをする」、「卑怯なことをしない」など、よく読むと当たり前のことのような内容なのですが、その当たり前のことが最近当たり前ではなくなっているということなのでしょうか。



「什の掟」

- 一 年長者の言うことに背いてはなりません
 - 二 年長者にはお辞儀をしなければなりません
 - 三 嘘を言うてはなりません
 - 四 卑怯な振舞をしてはなりません
 - 五 弱い者をいじめてはなりません
 - 六 戸外でものを食べてはなりません
 - 七 戸外で夫人と言葉を交わしてはなりません
- ならぬことはならぬものです



あいづっ子宣言

- 一 人をいたわります
 - 二 ありがとう ごめんなさいを言います
 - 三 がまんをします
 - 四 卑怯なふるまいをしません
 - 五 会津を誇り年上を敬います
 - 六 夢に向かってがんばります
- やってはならぬやらねばならぬ
ならぬことはならぬものです

